

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

イチゴ本圃へのハダニ類の持ち込みを防ぐために 苗の防除を徹底しましょう

イチゴの育苗圃でハダニ類の発生が増加しています。本圃での発生は、苗からの持ち込み量に大きく左右されるため、育苗期から徹底した防除を行い、低密度に抑えることが極めて重要です。ついては、下記を参考に、育苗期の防除対策を徹底するよう生産者への指導をお願いします。

記

1. 発生状況（令和8年7月15～21日定期調査）

- 1) ハダニ類の子苗での発生株率は 14.7%（平年 7.5%、前年 7.6%）と平年より多い（図 1）。
- 2) 発生程度は圃場間で大きく異なり、多発生した圃場も認められた（表 1）。

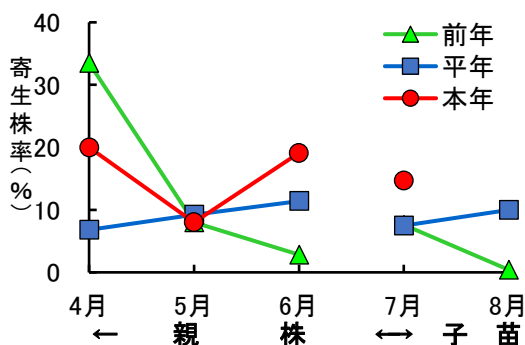


表1 定期調査圃場のハダニ類の発生株率(7月15～21日) 注1)

調査圃場	A	B	C	D	E	F	G	H	I
発生株率(%)	0	76	28	0	0	0	8	12	8

注1) 子苗(25株)の調査。

2. 防除対策

- 1) ハダニ類は小さく（体長約0.5mm程度）、肉眼では発生に気付きにくい。葉裏をルーペ等を用いてよく観察し、早期発見に努める。
- 2) 本圃でハダニ類が多発すると防除が困難になるため、本圃へ持ち込まないように定植前までに防除を徹底する。
- 3) 薬剤防除には、薬剤抵抗性の発達の可能性が低いとされる気門封鎖系薬剤を活用する（表 2）。ただし、これらの薬剤は卵に対して効果が低いものが多いので、5～7日間隔での2回散布を1セットとし、発生状況に応じて数セット散布する。殺卵効果が高い気門封鎖

剤は、苗が軟弱徒長している時や、高温時、曇天が続く時など、薬害が懸念される条件では使用を控える。

- 4) ハダニ類は薬液がかかりにくい下葉の葉裏に多く寄生するので、薬液が葉裏にもかかるよう十分量を丁寧に散布する。
- 5) ビニル雨よけ下で育苗を行っている圃場では、ハダニ類が増加しやすいため、特に発生状況を注視し、防除を徹底する。
- 6) 株冷を行う場合は、入庫までにハダニ類の防除を徹底する。
- 7) 本圃で天敵による防除を行う場合は、天敵に影響を及ぼす薬剤があるため、育苗期の薬剤の選択と使用時期に十分に留意する。

表2 イチゴハダニ類に対する主な気門封鎖系薬剤と殺卵効果

薬 剤 名	殺卵効果 ^{注)}
粘着くん液剤	△
エコピタ液剤	△
ムシラップ	△
フーモン	△
アカリタッチ乳剤	△
サフオイル乳剤	○
サンクリスタル乳剤	○

注) △…ナミハダニの卵に対して殺卵効果が低い、○…殺卵効果が認められる。
横山ら(2021) 関東東山病害虫研究会報 68: 56-58を参考に記載した。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi_jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321899/index.html

病害虫総合防除計画掲載アドレス

https://www.pref.saga.lg.jp/ki_ji00321928/index.html

防除セ QRコード*



総合防除計画 QRコード*

